

# 平成31年度畜産研究所の基本方針

## I 基本方針

当研究所は、「ぎふ農業・農村基本計画」（平成28年3月策定）にある各種施策の実現を研究開発の面からサポートするため、「岐阜県農畜水産業研究推進基本方針」（平成28年10月改訂）に基づく研究開発に積極的に取り組みます。

特に、県民に対する安全・安心・健康な畜産物の提供と県内畜産ブランド製品の振興を最重点課題として位置づけ、関係機関と緊密な連携をとり、①生産性向上のための家畜の育種改良の推進 ②畜産新技術の開発 ③畜産環境改善を中心とした研究開発により県内畜産業の振興を図ります。

## II 具体的な施策

### 1 研究開発方針

#### (1) マーケットインの視点に基づく研究開発

生産者、消費者及び関係機関のニーズに応えるマーケットイン(利用してもらえる研究をする)の視点に基づき、明確な開発目標を設定したうえで研究に取り組みます。

#### (2) 共同研究の推進

関係する国立研究開発法人研究機関や、県内外の大学及び県内研究機関等と連携し、共同研究等に積極的に取り組むことで、質の高い研究実施体制の構築に努めます。

#### (3) 関係機関との連携による確実な技術移転

研究開発の計画立案から技術の普及に至るまでの一連の取り組みを、行政・普及・地域・関係機関と一体になって推進し、確実な技術移転を図ります。

### 2 重点化した研究開発の推進

#### (1) 家畜の育種改良の推進

##### 1) 飛騨牛の育種改良

優良種雄牛の育種改良を推進し、「飛騨牛」の全国ブランドとしての基盤の維持発展に努めます。特に画像解析技術やゲノム解析技術を駆使し、「飛騨牛」の特徴形質に優れた種雄牛の開発を目指します。

また、現在活躍中の種雄牛「福平国」、「花福桜」、「花清光」、「孝隆平」等の有効利用とともに、新たに造成された種雄牛の改良増殖面での活用を推進します。

##### 2) 乳牛の改良

乳用牛群検定および牛群審査による雌牛の能力把握と遺伝的能力評価の高い種雄牛精液を利活用して、産乳能力が高く体型に優れた牛群改良を進め、その牛群から採取した雌雄判別胚を県内酪農家に供給し、県内乳用牛の能力レベルアップと改良スピードアップを積極的に支援します。

また、高泌乳牛のピーク時の泌乳量を抑制し泌乳後期まで持続させる飼養管理技術を確立することにより、改良効果や繁殖性能力が十分発揮できるように飼養管理面から支援します。

### 3) 豚の育種改良

家畜伝染病「豚コレラ」の発生により種豚を失ったことから、種豚「ボーノブラウン」（デュロック種）の再造成を進めます。同時に、筋肉内脂肪交雑量に優れるとともに豚抗病性に優れた改良を、遺伝子領域の解析により進める取り組みを行います。

### 4) 鶏の育種改良

「肉用奥美濃古地鶏」原種鶏の育種改良を進め、特に食味の改善する遺伝子を用いたDNA育種による肉質の向上を図り、高品質化を目指します。併せて、種鶏用種卵の民間孵化場への供給により生産基盤の安定・強化を支援します。

## (2) 畜産新技術の開発

### 1) DNA解析や受精卵移植技術を活用した新たな育種技術の開発

種畜選抜及び飛騨牛や銘柄豚、奥美濃古地鶏の生産性・経済形質について、DNA解析手法を利用した新しい育種手法の実用化を目指します。

また、受精卵移植や人工授精などへの生殖補助医療技術の応用による牛不妊治療法の開発に取り組むとともに、DNA診断後のバイオブシー胚の修復技術を開発します。

### 2) 飼料用米を活用した高品質・高付加価値化技術に関する試験研究の推進

黒毛和種肥育牛に対する飼料用米給与技術の現場実証試験を継続し、肥育牛への飼料用米給与の普及を目指します。

豚では飼料用米を給与し、肉質に特徴のある高付加価値豚肉生産技術を農家段階での現場実証によって確立します。併せて、飼料用米を給与した豚肉の嗜好評価指標を策定するために、おいしさに関わる脂肪酸（オレイン酸等）を高める飼料中の成分の検討を行い、給与技術の確立を目指します。

鶏では、育成鶏への飼料用米給与を行い産卵・卵質に及ぼす影響を検証し、差別化技術を確立します。

3) 枝肉重量及びロース芯面積を改善する飼料給与方法の開発

飼料中タンパク質の適正な給与割合、給与方法及び有効な利用方法を検証し、枝肉重量及びロース芯面積を改善する飼料給与方法を開発します。

4) 自給飼料の安定生産技術及び増産技術に関する試験研究

飼料用トウモロコシとソルガムによる混播栽培の安定生産技術および稲WC Sの高温条件下での品質劣化を抑制する技術の確立に取り組みます。また、自給飼料の利用拡大と高品質化を支援するため、近赤外分析装置による飼料及び草地土壌成分の迅速測定技術の確立に取り組みます。

(3) 畜産環境改善への対応

畜産農家の悪臭問題は、経営の存続に関わる大きな課題であることから一層の悪臭対策が必要となります。そこで、低コストな生物脱臭方式（ハニカムフィルター方式）等の有効的な脱臭方法、利用上の課題等について検証し、畜産農家への技術普及に取り組みます。

3 産業界発展に寄与する技術支援

(1) 飛驒牛部門では、さらなる銘柄化推進のため、肉用牛経営農家に対し和牛の交配・飼養管理・繁殖管理指導等の技術支援を行います。

また、平成34年に鹿児島県で開催される第12回全国和牛能力共進会を飛驒牛ブランド推進のための絶好の機会とするため、関係機関と協働しながら、飛驒牛戦略推進強化事業を推進します。

(2) 酪農部門では、優良乳用牛雌胚（受精卵）の供給や性判別技術を提供するとともに、飼料分析を活用した高度な栄養管理や適正な飼養管理技術、肥培管理等の飼料生産技術の向上を支援します。

(3) 養豚部門では、県内産豚肉のブランド化の支援に向けた技術指導を行います。

(4) 養鶏部門では、採卵及びブロイラー経営農家の生産性向上に結びつく質の高い飼養管理技術の指導を行います。また、県内鶏育種会社の国産採卵鶏原種鶏を連携・分担して改良を進め、国産鶏の普及を支援します。

(5) 畜産環境対策部門では、臭気対策を中心とした農家からの相談に対して、経営にも配慮した技術指導を行います。併せて、当所で開発した脱臭装置（アンモニアサイクラー）の普及、推進を行うとともに、堆肥の流通促進を含めた地域内

における資源循環を可能とするシステムの構築に取り組みます。

- (6) 飼料部門では、飼料の品質向上を支援するため飼料分析を実施するとともに、自給飼料の増産や有効利用を図るため、飼料作物品種比較試験や除草剤適応性試験に基づいた飼料作物生産技術の指導を行います。
- (7) 養豚養鶏研究部の業務の効率化、種畜の安定供給等を図るため 再編整備事業の推進を円滑に取り組みます。

#### 4 研究成果の発信

##### (1) 研究成果の発信

研究成果は、学会や研究会へ積極的に発表するとともに、産業界や県民等に開かれた発表会を通して情報発信します。また、マスメディアの更なる活用と、「畜産研通信」及び研究所ホームページにより、リアルタイムで質の高い情報発信に努めます。

##### (2) 優良種畜・精液及び受精卵の供給

種畜の育種改良を推進し、研究成果として優良種畜・精液及び受精卵を農家へ配布します。